

樹木の剪定

剪定とは

果樹 街路樹 庭木等の樹木の幹や枝を、ある目的を持って切ったり曲げたりすることです。
目的により、大きく2つに分けられます。

整姿剪定 (Trimming) 樹木に悟られないように行うものであり、1月～2月の休眠期に行うものです。
目的は次の通りです。

- ① 自然で美しい形に整える。または、ある特定の形につくる。
- ② 古い枝を除くことにより新しい枝を発生させて、若返らせる。
- ③ 枯枝 病枝 密生した枝等生育の障害になる部分を除いて、健全な状態にする。
- ④ 徒長を抑え、風害 雪害 寒害 病害等に対する、抵抗力を強化する。

整枝剪定 (training) 花や果実を大きくするため、樹木に認識されるように行うものです。
目的は次の通りです。

- ① 生育を調節し、開花 結実を一定で良好な状態にする。
- ② 移植の際、蒸散を少なくし活着を良くする。

剪定の順序

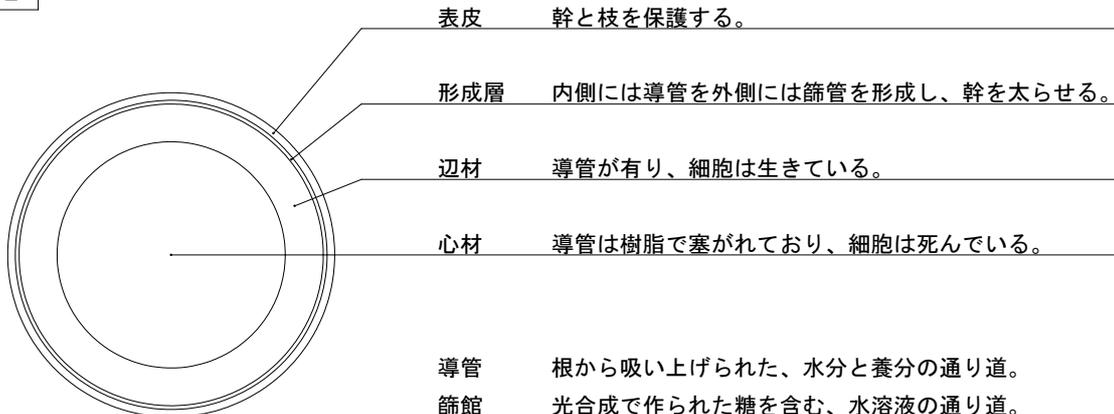
切ってしまった枝は元に戻りません。
よって、必要な枝を間違っって切ってしまうないように、順番を考えて切らなければなりません。

不要枝剪定 ———— 安全のためおよび樹形を整えるため、不要な枝を切り落とします。
枯れ枝 病害枝 障害枝 ひこばえ 胴吹き枝
平行枝 車枝 ふところ枝 下がり枝 立ち枝 返り枝
絡み枝 交差枝 重なり枝 かんぬき枝 密生枝

透かし剪定 (間引き剪定) ———— 見た目を美しくするため、日光や風の通りを良くするため、花や実の数と質を調整するため、余分な枝を付け根から切り落とします。

切り戻し剪定 (切り返し剪定) ———— 透かし剪定の目的に加え、木の大きさを一定に保つため、伸び過ぎた枝を途中で切り落とします。
太い枝を切りますので、特に注意が必要です。

幹枝の構造



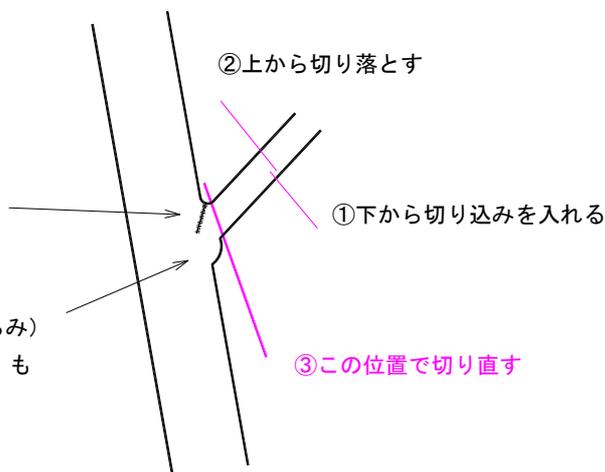
枝の切り方

切り口の癒合を促進させるには、切る位置と角度が大切です。
また、バークリッジとブランチカラーに、傷を付けてはいけません。

細い方を切る場合

上側のギザギザ
(バークリッジ) は
ギリギリ残す

枝隆 (下側のふくらみ)
(ブランチ カラー) も
ギリギリ残す



太い方を切る場合

②受け口の上側を切り

①受け口の下側を切り

幹に直角な線

④この位置で切り直す

ギザギザの中心線

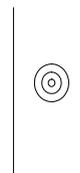
幹中心線

③追い口を切って、幹を切り落とす

このギザギザ
(バークリッジ) は
ギリギリ残す

2等分角

正しい方法で切った場合は
同心円状に傷が塞がっていきます



傷口の保護

1 cm以上の枝の切り口は、保護して上げないと枯れが入ります。

- ① 切断面とその外縁を、ナイフやカンナで整える。(切断面をスベスベにする)
- ② 切断面とその外縁に、「殺菌・癒合促進剤」を塗る。(トップジンMペースト等)

青森の弘前公園では、墨汁を塗っているようです。

染井吉野の剪定

私と妻と3人の子供達の母校である亀田小学校は、明治6年11月の開学です。
この学校の校庭（以前は天鷲グラウンド）には染井吉野が20本程植えられています。
私が小学生の時ですえ既に古木でしたから、かなりの歳と思われます。

もし、亀田小学校開学の時に植えられたとすると、最古の桜より古くなってしまいますし、
（日本最古の染井吉野は弘前公園にあり、明治15年（1882年）に植えられています）
昭和3年9月に天鷲グラウンドが新設されていますので、その時に植えられたとしたら若過ぎるような気がします。
いったい、いつ植えられたのでしょうか。

ところで、この桜、手入れされていませんので、悲惨な状態になっています。

- ① 真上に電線が有るためか主幹も胴切りされており、見栄えが非常に悪いだけでなく、胴枯れも起こしています。
- ② 主枝も寸切りされており、そこから腐朽が進み、主幹が空洞になっているものもあります。
- ③ 枝が込み合っているせいか、枯れた枝もたくさんあります。
- ④ ヒコバエ 胴生え枝 徒長枝 もたくさんあります。
- ⑤ テングス病が大量発生しています。
- ⑥ 蔦が絡まっている木がほとんどです。
- ⑦ 直ぐ側にプラタナスが植えられおり、陽が当たっていない桜も有ります。

←

空洞の中に
不定根を出している
ものもあります。

そこで、ネットでいろいろ調べてみましたら、危険度を数値化している人がいました。。
これによれば、ほぼ全てが最大危険度であると判断されます。

- | | |
|-------|--|
| 危険度 1 | 幹や枝に腐朽がほとんど無く、良好に生育している。 |
| 危険度 2 | 幹や枝の一部に腐朽はみられるが、幹折れや枝折れの心配は無く、ほぼ良好に生育している。 |
| 危険度 3 | 幹や枝の数箇所に腐朽がみられ、その一部は進行し樹勢衰退へも影響を及ぼし、枝折れ等の危険性がある。 |
| 危険度 4 | 主幹やその根元に明らかな腐朽がみられ、その進行により樹木の危険性を予察できる |

染井吉野の特徴

- ① 大きくて整った花を付けるオオシマザクラと、葉が出るより先に花が咲くエドヒガンザクラの、1代交雑種である。
- ② 種が出来ないので、接ぎ木で増やす。
- ③ 桜の中では最も大きくなり、樹高15m枝張り20m位になる。
- ④ 枝分かれする性質が非常に強く、放っておくと密になり過ぎてしまい、弱い枝は枯れる。
- ⑤ 横に伸びる性質があり、地上1~2mのところから主枝を出しているものが多い。
- ⑥ 傷の治りが悪く、傷口から枯れが入ることが多く、ひどい場合は幹に空洞ができる。
- ⑦ 接ぎ木した苗が生長し自分の根を出すようになると、台木が枯れ死し、その結果空洞ができる。
- ⑧ 主幹に空洞が出来ると、その中に不定根を生やし、やがては地面に届いて主幹の機能をはたすようになる。
- ⑨ 天狗巣病にかかりやすく、また、病巣を放っておくと枯れ死してしまう。
- ⑩ 葉芽も花芽も、秋に、今年できた枝に付ける。

剪定の仕方

- ① 枯れ易いので剪定しないのが基本であり、結果自然仕立てとなる。
- ② 太い枝程傷の治りが悪いので、出来るだけ細い枝の内に切る。
- ③ 太い枝を切る場合は、枯れが入らないよう十二分に注意して切る。
- ④ 花は去年の枝の先に咲く。よって切り詰めはしない。
- ⑤ 休眠期の1~2月に行う。（秋田では3月までOKであるが、早いほうが良い）
- ⑥ 見分けにくい枯れ枝は、葉が出てから行っても良い。

瀕死の状態だった弘前公園の桜を
りんごの剪定技術を使って
蘇えらせてから、
桜も剪定するようになりました。
ただし、傷跡から腐ることが多いので
傷の手当が重要です。